

# 実技試験に代えて講習又は実習を実施する 場合の実施方法等の骨格(案)について

# 保育士試験の実技試験を講習又は実習に代える場合の考え方(案)

## 1 考え方の主な論点

- (1) 保育士試験受験者に多様な選択肢を提供する観点から、実技試験に代わる講習又は実習(以下「保育実技講習(仮称)」という。)を受講した者は、実技試験を免除することとする。
- (2) 保育実技講習(仮称)において実習を行う場合は、
- ① 受講者が実習において保育現場をより理解できるようにすること
  - ② 受講者が実習に行くまでに予め必要な表現技術を身に付けておく必要があることから、実習のみを行うのではなく、講習と実習の両方を実施することとする。

## 2 保育実技講習(仮称)の骨格(案)

- (1) 保育実技講習(仮称)の時間数  
30時間程度(4～5日間)を目安とする。

※ 保育士養成課程の「保育の表現技術」の修得単位は4単位となっている。また、当該科目は「身体表現」、「音楽表現」、「造形表現」、「言語表現」の4つで構成されており、保育士試験の実技試験では、このうち「身体表現」を除く3つが出題範囲となっている。  
このため、保育実技講習(仮称)では、「保育の表現技術」が4単位(4.5時間)であることを踏まえ、概ね3/4程度の時間数とした。

## (2) 講習の内容

- ① (A)「講習のみ」又は(B)「講習及び実習」のいずれかで実施する。
- ② (A)「講習のみ」の場合は、保育士養成課程の「保育の表現技術」にある「音楽表現」「造形表現」「言語表現」の3つを実施することとし、(B)「講習及び実習」を行う場合は、3つのうち2つを保育実技講習(仮称)を実施する機関が選択し、実施する。
- ③ 実習は見学実習(2日程度)により行うこととする。
- ④ 実習に当たっては、事前にオリエンテーションを行うとともに、実習後、その内容を振り返る時間を設ける。
- ⑤ 実習は、原則として実習を適切に行える保育所において行うこととし、可能であれば、保育所と他の児童福祉施設等の複数の施設で実施することが望ましい。
- ⑥ (A)「講習のみ」の場合は、保育現場が理解できるよう映像等を活用して行うこと。
- ⑦ 原則として、全ての時間の出席をもって講習を修了したものとする。ただし、受講態度が著しく不適切な場合は、修了としない。  
なお、修了としない場合の判断は、保育実技講習(仮称)を実施する機関が適正に評価を行うものとする。

## (3) 保育実技講習(仮称)を実施する機関

保育実技講習(仮称)を実施する旨を予め都道府県に届出した指定保育士養成施設又は都道府県が認める機関が実施する。

## (4) 実技試験が免除される期間

保育実技講習(仮称)を修了した者は、その修了した日後引き続いて行われる地域限定保育士試験の3回の実技試験を免除する。

## 2 保育実技講習(仮称)のカリキュラム(案)について

### (A) 講習のみを実施する場合

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
保育の表現技術 (総論)	講義	180分 (2コマ)	保育現場における表現についての意義や目的などについて理解する。	(1) 保育における表現の意義 (2) 保育の表現による子どもの発達への影響及びその重要性 (3) DVD等の映像教材を活用した保育現場の理解
保育の表現技術 (音楽表現)	演習	450分 (5コマ)	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2. 音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。	(1) 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開
保育の表現技術 (造形表現)	演習	450分 (5コマ)		(1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
保育の表現技術 (言語表現)	演習	450分 (5コマ)		<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの発達と絵本、紙芝居、劇(人形劇含む)、ストーリーテリング等に関する知識と技術</li> <li>(2) 子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境</li> <li>(3) 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開</li> </ul>
保育の表現技術 (まとめ)	講義・演習	270分 (3コマ)	保育の表現技術(音楽表現、造形表現、言語表現)の今後の展開方法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育表現(音楽・造形・言語)のグループによる成果の発表</li> <li>(2) 成果に対する評価・課題</li> </ul>

計 30時間

## (B) 講習及び実習を実施する場合

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
保育の表現技術 (総論)	講義	180分 (2コマ)	保育現場における表現についての意義や目的などについて理解する。	(1) 保育における表現の意義 (2) 保育の表現による子どもの発達への影響及びその重要性 (3) DVD等の映像教材を活用した保育現場の理解
保育の表現技術 (音楽表現)	演習	270分 (3コマ)	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2. 音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。	(1) 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開
保育の表現技術 (造形表現)	演習	270分 (3コマ)		(1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開

※保育の表現技術(音楽表現・造形表現・言語表現)のうち、2科目を保育士実技試験講習(仮称)を実施する機関が選択

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
保育の表現技術 (言語表現)	演習	270分 (3コマ)		<p>(1) 子どもの発達と絵本、紙芝居、劇(人形劇含む)、ストーリーテリング等に関する知識と技術</p> <p>(2) 子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境</p> <p>(3) 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開</p>
保育見学実習 (事前指導)	講義	90分	<p>1 見学実習を行うに当たったの配慮事項やポイントについて理解する。</p> <p>2 見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。</p>	<p>1 見学実習の目的</p> <p>2 見学実習のポイントと配慮事項</p>
保育見学実習	実習	2日	<p>1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。</p> <p>2 保育士の業務内容や職業倫理について理解する。</p> <p>3 保育現場における保育の表現技術の実際について理解する。</p>	<p>(1) 見学実習による保育現場の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の生活と一日の流れ</li> <li>・子どもの観察とその記録</li> <li>・子どもへの援助やかかわり</li> <li>・保育計画や子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>・子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>・子どもの健康と安全</li> </ul> <p>(2) 専門職としての保育士の役割と職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の業務内容</li> <li>・職員間の役割分担や連携</li> <li>・保育士の役割と職業倫理</li> </ul>

科目名	区分	時間	ねらい	教育に含むべき事項
				(3) 保育現場における保育の表現技術の実際 ・保育における保育表現技術の実際 ・状況に応じた保育表現  ※ 見学実習各日の最後に30分程度、実習施設の保育士との質疑応答等を行う。 ※ 見学実習各日終了後、受講者の態度や行動等について、実習先の施設から講習実施機関に伝達する。
保育見学実習 (事後指導)	演習	150分	○ 見学実習の事後指導を通して、見学実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	○ 事後指導における見学実習の総括と課題の明確化 (1) 見学実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化

**計 16時間＋2日 (30時間)**

※見学実習1日を7時間として算定